

3  
月



令和8年 3月1日  
佛教大学附属こども園

「仏教保育3月のねらい」

ちえきぼう  
智慧希望



### 「あんなにあんなに」

温かい日差しが差し込むようになる3月の陽気は、5歳の子どもたちの巣立ちが近いことを教えてくれているようです。そしてそれはみんなが一つ進級する嬉しい季節の訪れです。もしかすると、新しく環境が変化することを、寂しさのように感じる方も少なくないかもしれません。

私の好きな絵本に「あんなにあんなに」(ヨシタケシンスケ ポプラ社)があります。そこには、「あんなにちいさかったのに もうこんな…」という少しずつ育っていく子どもに抱くお母さんの気持ちがちりばめられています。子どもたちは日に日に大きくなり、それは身長や体重だけではなく、心の成長もあることは保護者のみなさんもよくわかっておられる通りです。半年前にそでを通していた服が小さくてもう着ることができなくなるように、いつの間にか転んでも泣かなくなるように、子どもたちの成長はとてもはやいものです。

先日生活発表会でも「3歳の時にはステージの端でずっと泣いていたのに…」と、一生懸命に友だちと一緒に自分の役割を果たそうとする5歳児の姿に目頭を押さえておられる姿がありました。まさに「あんなに小さかったのに…」という場面ですね。

日々子育てをしていると、「たいへん」と思うことも多々あるかと思いますが、子どもたちは「今」しかない姿をめいっぱい表現しています。そして「あんなに」小さかった時のこと、「あんなに」手がかかっていた時のことを懐かしく思う時がいつか来ます。「こんなに」大変な乳幼児期だからこそ、「こんなにあなたのことを大切に思っている」ことを、どうぞ言葉で伝えてくださいね。それは子どもたちのこれからを生きていくエネルギーとなります。

3月の仏教保育のねらいは「知恵希望」(希望を持ち楽しく暮らそう)です。目の前の子どもたちのことを思えば思うほど、あれもこれも伝えたくなる私たち大人ですが、子どもたちが未来に希望をもって前を向いて生きていくためには、子どもたちに「任せる」ことが大切です。遊びの中で、人と交わる中で「大切なことを学ぶ」からこそ、大きくなった時、希望を持ち自分のことも周りの人のことも大切にしながら心豊かに生きていくようになるのでしょう。私たち保育者もこれからも子どもたちが「どうしたいのか」「どうありたいのか」をキャッチしながらその子らしい心の根っこを育てていきたいと願っています。

副園長 村上真理子



素敵な本です。  
ぜひ手に取って  
読んでみてください。

